

# 「まちの復興」と「ひとの復興」

21世紀文明シンポジウム「東日本大震災から10年」

2021年1月21日

朝日新聞仙台総局編集委員 石橋英昭

# 宮城県名取市閉上 まちの復興

2011年3月11日、最大9mの津波にのまれる  
海上保安庁提供

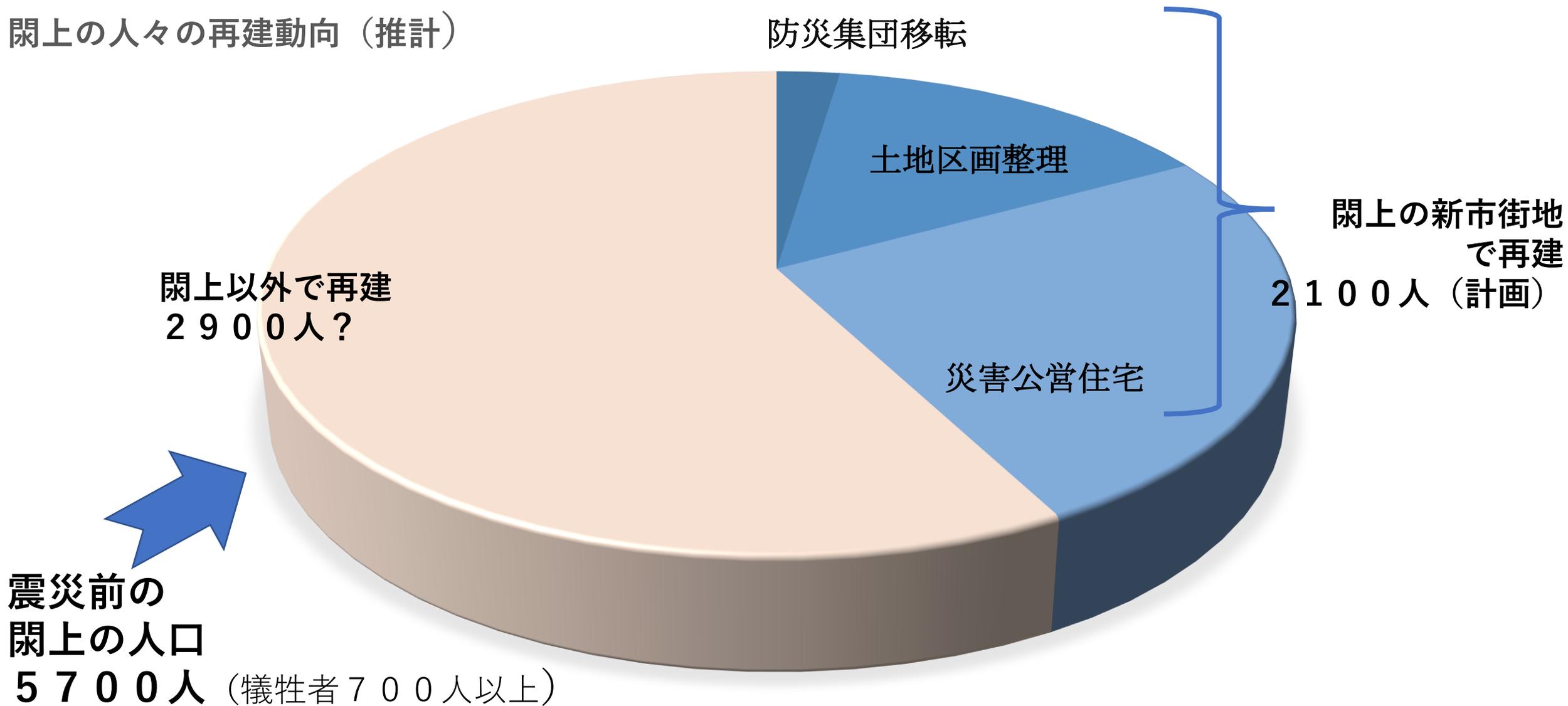


旧市街地のうち57%を最大5mかさ上げし  
新市街地を再建  
2020年3月末に「復興達成宣言」

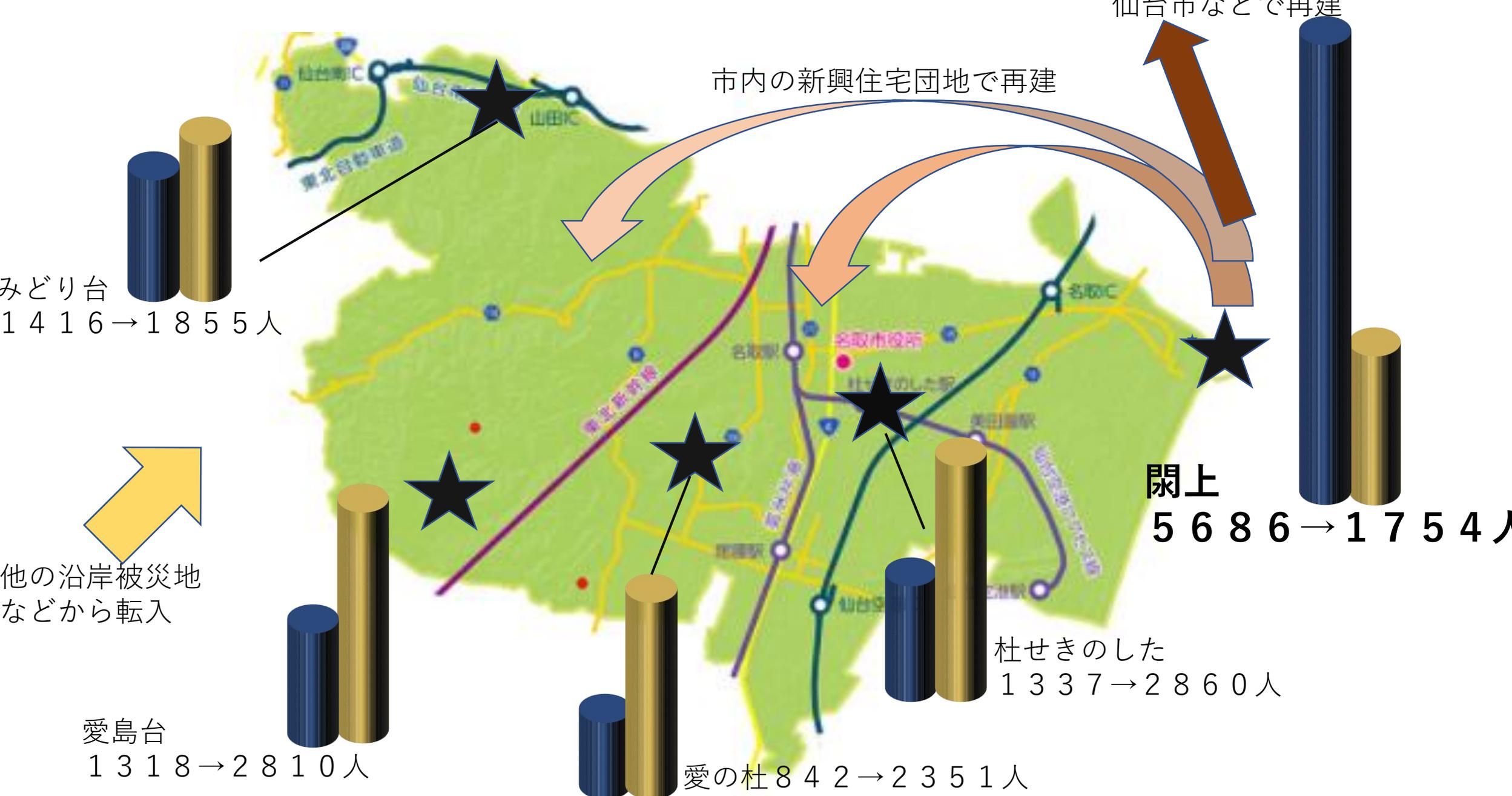


# 人口が4割に縮んだ街

閑上の人々の再建動向（推計）

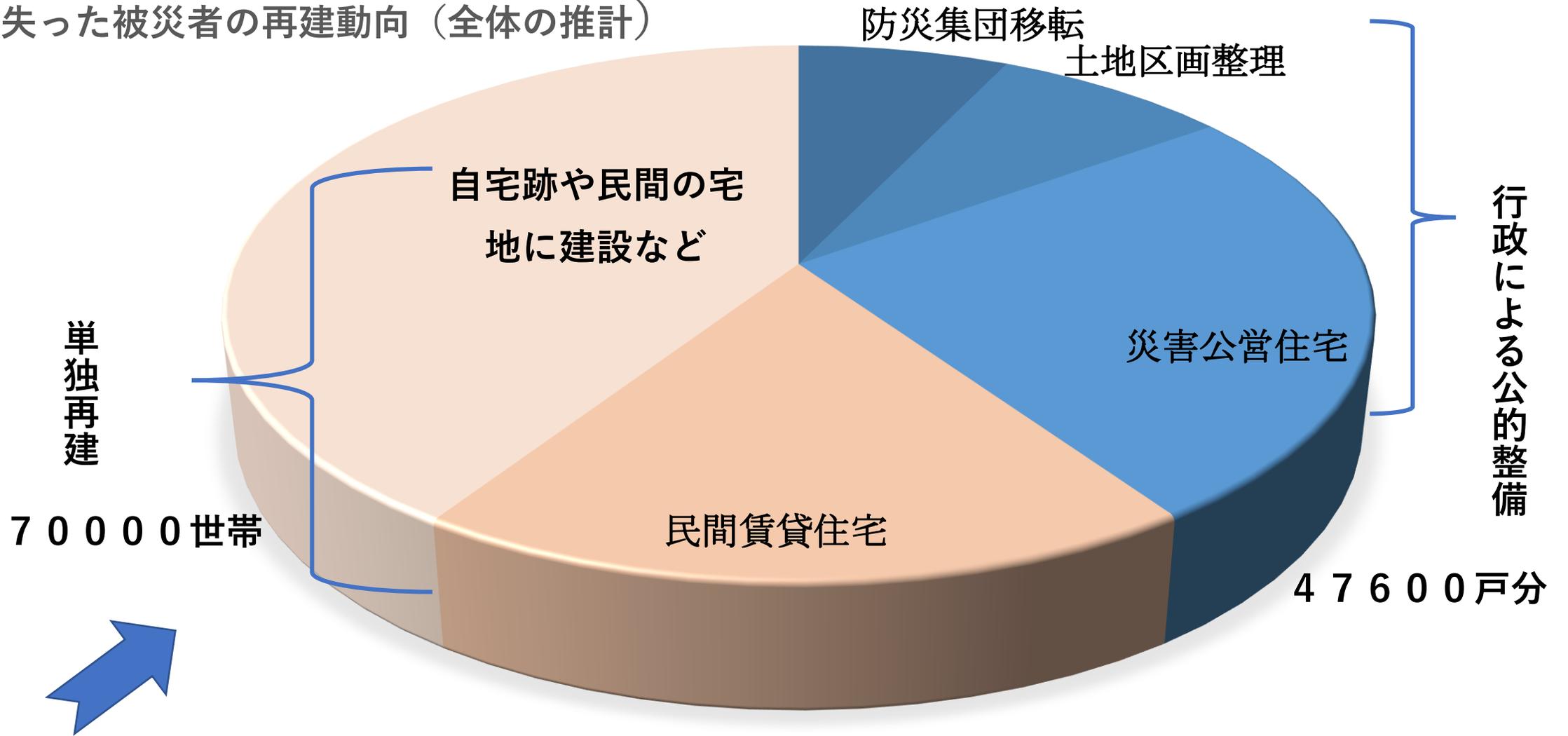


# 名取市の地区別の人口推移（2011年2月→2020年11月）



# 多かった「単独再建」

自宅を失った被災者の再建動向（全体の推計）



単独再建

70000世帯

自宅跡や民間の宅地に建設など

民間賃貸住宅

災害公営住宅

47600戸分

行政による公的整備

117600世帯  
自宅を失い、再建した人

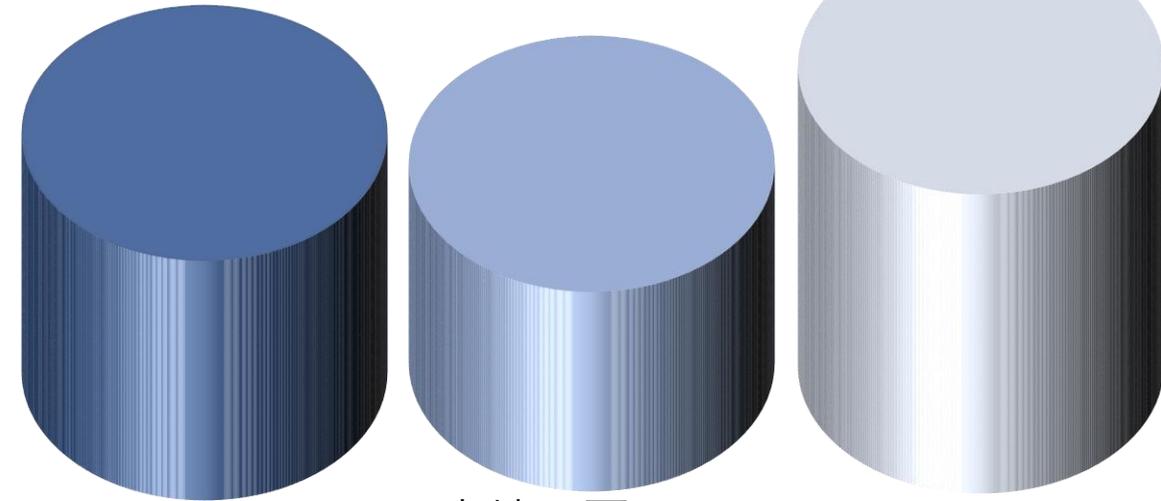
（被災者生活再建支援金の加算支援金で新築・購入・賃貸＋災害公営住宅入居）

社会部・渡辺洋介記者作成

# 公助・共助・自助 住宅再建に使われた主なお金

## 行政による公的整備

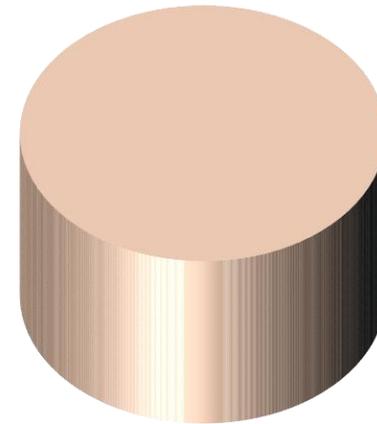
## 個人への給付



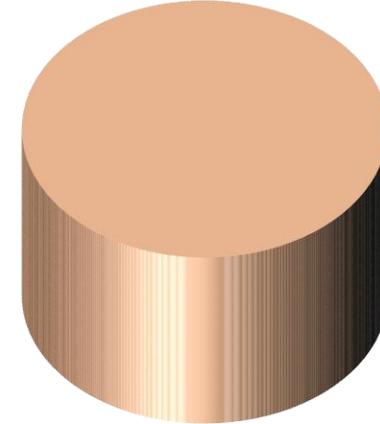
防災集団移転  
促進事業  
5 6 0 0 億円

土地区画  
整理事業  
4 6 0 0 億円

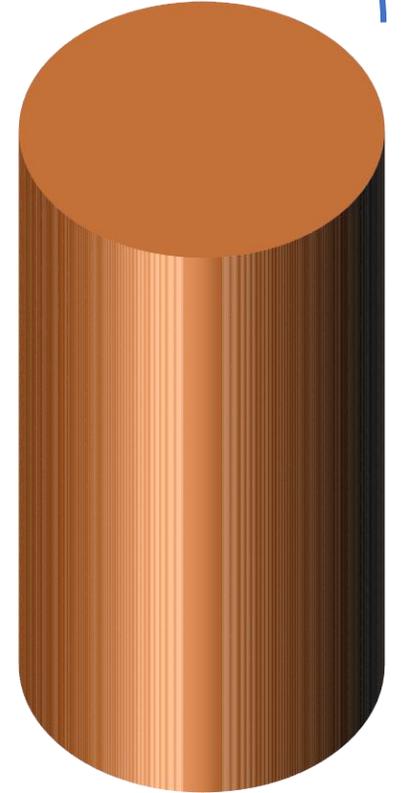
災害公営住宅  
7 1 0 0 億円



被災者生活  
再建支援金  
3 7 0 0 億円



義援金  
3 8 0 0 億円



地震保険の  
支払い  
1 兆 2 9 0 0 億円

公助

共助

自助

## 多かった「単独再建」

- ・復興の「時間」というコスト 「待てない」「事情の変化」
- ・まちづくりの合意形成の難しさ
- ・「みなし仮設」の本格導入 →都市部への移住につながる
- ・受け皿となった住宅団地、空き部屋・空き地の存在
- ・個人への支援・個人の備え →被災者の選択肢が広がった面も

**「まちの復興」と「ひとの復興」のズレ、食い違い**

**両者のバランスをどうとり、支援策をどう調整するかが  
今後の大災害からの復興の課題**

# ひとの復興を考える視点① 移住者たちの同郷サロン

震災後にふるさとを離れ、仙台などに移住した人たちの同郷の集まりがいくつも続いている

福島県浪江町から宮城県に  
長期避難・移住している人たちが集う  
「ふくしま仙台サロン」

宮城県東松島市旧鳴瀬町から  
仙台に移住した人たちが毎月集まる  
「鳴瀬サロン」



## ひとの復興を考える視点② 災害ケースマネジメント

復興から取り残されがちな人の事情を個別に聞き取り、オーダーメイドの支援をする手法

石巻市の在宅被災者・佐藤悦一郎さん  
資金がなく自宅の修理が不十分なまま  
カビの生える家に一人住み続ける

在宅被災者を戸別訪問する  
仙台弁護士会や「チーム王冠」メンバー  
災害ケースマネジメント導入を訴えている



災害多発・人口減少の時代

持続可能な地域社会をつくるためにも

「まちの復興」 「ひとの復興」 の両方の視点が必要

ご静聴ありがとうございました。

(写真・図表の転載禁止)